

平成 28 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終反省)」

大阪市立 大桐中学校
平成 29 年 3 月

大阪市立大桐中学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成 15 年度より続く本校の教育目標及びグランドデザインである「人にやさしい学校づくりに努める」「個性のちがいを認め思いやりの心を育てる」の達成を目指し、「Team The Daido」をスローガンに、全力で「力のある学校」づくりの取り組みをすすめている。

その結果、校内外での問題行動も減少傾向となり、授業も落ち着いた環境で行われる等、校内の安定は保たれている。またこれらの取り組みは保護者・地域からも理解され、良好な協力関係が維持されている。

その一方、学力面は各種の学力調査及び学力テスト等の結果からみると、全国や大阪市平均と比較して、国語・数学とも正答率の高い生徒が少なく、中間層の生徒が多いという状況がここ数年継続している。

学力の向上については、各教科の工夫をこらした授業や長期休業中の補充学習に取り組んできた成果として昨年度より改善傾向にはある。しかし、基本的な生活習慣の確立が不十分なことから自学・自習の習慣が定着せず、学習内容の理解不足の原因となっている生徒も少なくないと想像される。

これらの課題を克服するためには、授業の工夫をさらに進めるとともに、家庭での学習の定着化に向け、平成 26 年度から小学校と共同で作成している「家庭学習の手引き」を積極的に活用し、学びの連続性に取り組む必要がある。さらに、本校の学びのスタイルである協同学習とアクティブラーニングの融合を図り、わからないところを教えあったり、多様な考えをすり合わせたり、学んだ内容を発展させる活動を通じて、個々の学ぶ力の向上に努めたい。

今後も継続して「Team The Daido」をテーマに、本校の学校教育目標のさらなる推進を図っていく。この取り組みは、本校の全ての教育活動の軸となるとともに、生徒・保護者・地域に深く浸透しており、今後も地域の教育力の積極的な活用にも取り組んでいく必要がある。

中期目標

『人にやさしい学校づくりに努める』『個性のちがいを認め思いやりの心を育てる』という本校の学校教育目標を達成するために「Team The Daido」を目指す。

【視点 学力の向上】【視点 道徳心・社会性の育成】【視点 健康・体力の保持増進】の三視点共通の目標

「Team The Daido」

1. 自校の現状・課題を全教職員が共通理解し、協力して解決を図る教職員組織。
2. 子どもの可能性を最大限に引き出す教職員組織。
3. 「力のある学校」の 8 要素を指針として、重点的に取り組む教職員組織。

(カリキュラム改革関連)

(マネジメント改革関連)

(グローバル化改革関連)

(学校サポート改革関連)

「力のある学校」の8要素（*together* 号）を学校評価指針として全教職員で重点的に取り組む。

- ①気持ちのそろった教師集団（*Teachers*）を目指す。
- ②戦略的で柔軟な学校運営（*Organization*）を目指す。
- ③豊かなつながりを生み出す生活指導（*Guidance*）を目指す。
- ④すべての子どもの学びを支える学習指導（*Effective teaching*）を目指す。
- ⑤ともに育つ地域・校種間連携（*Ties*）を目指す。
- ⑥双方向的な家庭とのかかわり（*Home-school link*）を目指す。
- ⑦安心して学べる学校環境（*Environment*）を目指す。
- ⑧前向きで活動的な学校文化（*Rich school culture*）を目指す。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

（1）【視点 学力の向上】

④*Effective teaching*

- 全国、全市規模で実施される学力テスト、運動能力調査等において、市平均点レベルの獲得を図る。

（カリキュラム改革関連）

⑤*Ties*

- 明確な目的をもった校種間連携の推進に取り組むとともに、保護者との情報交換をもとに自学自習の習慣を身につけさせる。

（マネジメント改革関連）

（2）【視点 道徳心・社会性の育成】

③*Guidance*

- 子ども相互がエンパワーできる集団を育成し、生徒が主体となった各種の行事を成功させる。

（グローバル化改革関連）

⑥*Home-school link*

- 全国学力・学習状況調査における「学校のきまり、規則を守っている」について肯定的に回答する生徒の割合を昨年度より高める。

（学校サポート改革関連）

（3）【視点 健康・体力の保持増進】

⑦*Environment*

- 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学校に行くのは楽しい」の項目について「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

（マネジメント改革関連）

(4) 【視点 教職員の資質・能力の向上】

① *Teachers*

- 首席・主任・部長の連携をより一層円滑にし、チーム力を引き出すリーダーシップの育成を図る。

(マネジメント改革関連)

(5) 【視点 学校マネジメントの向上】

② *Organization*

- 組織としてのビジョンと目標を共有し、その達成に取り組む教師集団の育成を図る。

(マネジメント改革関連)

⑧ *Rich school culture*

- 誇りと責任感に基づく学校文化をつくりあげるため、保護者・地域・関係諸機関との連携を深める。

(マネジメント改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

(1) 【視点 学力の向上】

目標としていた市平均点レベルの達成とはならなかつたが、6月に実施した3年生のチャレンジテストでは、英語については大阪市平均を0.1点上回るなど昨年度までと比較すると市平均点レベルに近づいてきている。

今年度からICT機器を活用したアクティブラーニングの授業を多くの教科で取り入れ、アンケート結果からも授業での生徒の主体的な活動が増え、興味関心が高まつた。来年度は、さらにICT機器を活用したアクティブラーニングを多く取り入れるとともに研修等を通して教師の授業力アップを図り、基礎学力の向上につなげていきたい。

(2) 【視点 道徳心・社会性の育成】

体育大会をはじめ、一泊移住、修学旅行、球技大会等、生徒が主体となって素晴らしい行事をつくりあげた。

全国学力・学習状況調査における「学校のきまり、規則を守っている」について肯定的に回答する生徒の割合が昨年度より9.5ポイント高く、大幅に上がつた。

(3) 【視点 健康・体力の保持増進】

全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」について肯定的に回答する生徒の割合が昨年度より8.2ポイント高く、大幅に上がつた。

(4) 【視点 教職員の資質・能力の向上】

2回の授業アンケート、11月の全教員による研究授業、若手教員の道徳および教科の研究授業などを実施し、PDCAサイクルで授業力の向上に努めた。

(5) 【視点 学校マネジメントの向上】

いじめのない学校づくりを目指して、学期毎にいじめのアンケートを実施し、教育相談の取り組みを行つた。また、日頃より生徒への声かけを大切にし、安全・安心の学校づくりに努めた。

大中ナビの製作・製本・配布を通して、地域とつながり、また本校の伝統と精神を引き継いでいくことができている。

(様式2)

大阪市立大桐中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなか	
年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ④すべての子どもの学びを支える学習指導(<i>Effective teaching</i>)を目指す。 全国、全市規模で実施される学力テスト、運動能力調査等において、市平均点レベルの獲得を図る。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 自主学習習慣の確立】 全体として基礎・基本の定着を図るとともに、できる生徒の力をさらに伸ばすための学習システムづくりをすすめる。	B (カリキュラム改革関連)
指標 [国語] ・基本的な読み書きができるような学習を計画し、実行する。単元ごとに漢字の練習プリントを配布する。 ・自らの意見や考えを書いたり、発表したり、他者の意見を聞いたりできる能力を向上させる。 ・指導方法を工夫し、読解力の向上につながる授業をおこなう。単元ごとに練習問題プリントを配布する。	B C B
[社会] ・基本的内容を理解させることに努め、基礎学力の定着を図る。また、単元ごとに小テストを行い、基礎学力の定着度合いを分析する。 ・指導方法に工夫し、社会科に対する興味・関心を高める。 ・資料から情報を収集・選択し、それらを用いて表現力を高められるよう、言語活動を進める。	B A B
[数学] ・基本的内容について、単元毎に小テストを実施し、弱点補強を行い基本的事項の定着を図る。 ・学習定着度が低い生徒に対し昼休みや放課後に個別指導をし、学習定着度の高い生徒には補充（応用レベル）プリントの配布・添削を行い、個に応じた指導を充実させ、習熟度に応じて適切な教材の使用により、学習意欲を高めるように努める。 ・協同学習を通して、生徒各自の問題解能力を向上させる。	B B B

[理科]	・学習内容のイメージ化をはかることで科学的な興味・関心を高め、基礎学力の定着や応用発展的な学力の向上を目指していく。そのため、授業の多くの場面において生徒に演示実験、実験の観察などを積極的に取り入れた授業展開を行う。	B
	・淀川を含む地域の自然環境を教材として活用するための研究を継続・推進する。	B
	・一問一答式のクロス学習を授業始めを行い、前授業内容の復習をする。また、単元ごとに小テストを行い、基礎知識の定着をはかる。	B
[音楽]	・教材や指導法を工夫し、音楽に対する興味・関心を高め、意欲的に音楽活動を展開できるよう努める。	B
	・単元ごとに目標設定を定め、音楽活動の基礎的な能力の向上に努める。	B
[美術]	・基礎的な道具の管理や使用方法について共通理解を定着させ、個々の基礎的・創造的な造形活動を発展させる。	B
	・身近に美術の活動にふれ、美術を愛好する心情を育成するために、作品展示を積極的に行う。	B
	・ねばり強く取り組む姿勢を養うために、つまずかない教材研究に努める。	B
[保健体育]	・それぞれの運動種目の特性を生かして、個人の体力・運動技能の向上を図る。さらに、互いに学び、教えあえる集団育成に努める。	B
	・運動能力の向上のために、授業の初めに筋力トレーニング等の運動を行う。	B
[技術家庭]	・毎時限、プリントを配布し板書を減らし授業スピードの効率を上げることに努める。	B
	・班で協力して作品の完成度を高める工夫をする。	B
	・全学年で「食生活」についての学習、実習を取り入れ、3年間を通して食育に努める。	B
[英語]	・言語や文化に対する理解を深め、C-NETとの授業を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、コミュニケーション能力の基礎を育成する。	B
	・授業中のICT（デジタル教科書など）を95%以上利用し、4技能をバランスよく取り入れた授業を実施することで、基礎学力の定着に努める。また、単元ごとの小テストを行い、基礎・基本の定着度合を分析する。	B
	・全学年でティーム・ティーチングや習熟度別学習を行い、個々に応じた指導に努める。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

[国語科]

- ・基本的な読み書き学習は漢字の学習等で実行することができた。
- ・入試課題として慣用句や四字熟語などを書く学習習慣をつけさせた。また、グループ学習や天声人語の書き取り等から読解力向上につながる授業を行えた。

[社会科]

- ・言語活動を充実させた授業に取り組み、生徒が自らの考えをまとめたり、発表したりすることが増えた。
- ・一斉授業だけでなく、グループ活動や ICT を使用した学習に取り組んだことにより、意欲的に学習に取り組む生徒が多くなってきた。

[数学科]

- ・基本的内容について単元毎に小テストを実施し、基本・基本の定着に努め、一定の成果はあったが、十分ではない生徒もいた。
- ・基礎学力補充として、昼休みや放課後に個別指導をし、発展補充として、プリントの配布・添削を行い、個に応じた指導を行った。
- ・協同学習を通して、生徒各自の問題解決能力の向上に努めた。

[理科]

- ・1つしかない理科室を3学年で上手く連携し、生徒実験・演示実験を多く取り入れた授業を行った。
- ・ICT を利用し動画を見せて学習内容を深めることも行った。視聴覚教材を有効的に授業で活用することができた。
- ・自然科学部で淀川の水質調査に参加した結果を、文化発表会で発表し全校生徒に広めた。
- ・一問一答や小テスト、長期休業時の課題などを通して、学習内容の定着を図った。また発問に對し、口頭で説明させていくことで表現力を高めることができた。

[音楽]

- ・リコーダーの繰り返しの音階練習により、3学年とも技術の向上が見られた。
- ・各パートで課題に取り組むことで互いに教え合い、学び合う姿勢が身についた。
- ・毎時間目標設定することで、生徒が自主的に活動できるようになった。

[美術科]

- ・絵の具や立体造形の基本的な技法を学び、定着させるよう個別指導や協同学習を取り入れ、自発的な学習ができるようになった。
- ・一つの班での活動人数を4人以下にすることで、効率よく取り組ませることができた。
- ・美術室内にとどまらず、校内やコンクール等に出品し展示活動をすることで、他者の作品を見る機会もふえ、生徒らの作品作りのモチベーションの向上にもつながった。

[保健体育科]

- ・それぞれの運動の特性を生かし、運動技能の向上を図るとともに、協同学習を通じて互いに学び、教えあえる集団育成に努めた。

[技術家庭]

- ・プリント、ICT 機器を使い時間短縮につながった。
- ・班で協力して作品の完成度が上がっている。作業スピードをあげ、作品を細かく仕上げていけるよう指導する。
- ・全学年で「食生活」についての学習、実習を取り入れ、食育に努められた。

<p>[英語]</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年 C-NET との授業を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、コミュニケーション能力の基礎を作ることができた。 授業中の ICT (デジタル教科書など) を利用し、4技能をバランスよく取り入れた授業を実施している。また、単元ごとの小テストを行い、基礎・基本の定着が見られた。 全学年でティーム・ティーチングや習熟度別学習を行った。
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>
<p>[国語科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の結果から、向上させるという目標には届かなかった。今後は話し合い活動や意見文を書かせることに取り組みたい。
<p>[社会科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動をさらに充実させるために、基礎基本の徹底を行う。そのために、予習と復習を繰り返す。 タブレット端末を使用した授業実践をすすめていく。
<p>[数学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、基礎学力の定着へ向け、根気強く指導を行い、習熟度に応じて適切な教材作りに努めたい。 必要な単元に応じて協同学習や ICT 機器を活用した授業を積極的に取り入れながら、生徒が全単元において興味関心を抱くことができるよう努めたい。
<p>[理科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に掲載されている実験器具や装置を整備し、生徒の理解度の向上を図る。 学習内容の効果的な定着方法を研究する。 実験と基礎学習をバランスよく行い、興味関心を引き立てていく。 水質調査の結果を、授業でも活用し、身近な環境から自然に対して興味関心を深めていく。 ICT を活用していく際、理科では天体など暗い映像が多いため、教室で見せるには不向きである。1つしかない理科室を3学年で計画的に調整し利用していきたい。
<p>[音楽科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 苦手生徒への個別指導とリコーダー学習にも班活動を取り入れたい。
<p>[保健体育科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 筋力トレーニングだけでなく、活動内での運動量の確保に取り組んでいく。
<p>[技術家庭]</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間をかけ、作業時間を増やし表現の自由を引き出していく。 ICT 機器を使い、授業スピードをあげたい。

年度目標	達成状況
<p>【 視点 学力の向上 】</p> <p>⑤ともに育つ地域・校種間連携 (<i>Ties</i>) を目指す。</p> <p>明確な目的をもった校種間連携の推進に取り組むとともに、保護者との情報交換をもとに自学自習の習慣を身につけさせる。</p> <p style="text-align: right;">(マネジメント改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分 小中一貫した教育の推進】 小中連携を充実させ、学び及び指導方針の連続性を図る。	(ガバナンス改革関連)	B
指標 授業・行事等の相互参観及び小中教務会を、年3回以上実施する。		
取組内容②【区分 自主学習習慣の確立】 全学年で家庭との連携を深め、段階に応じた自主学習の習慣を身につけさせる。	(学校サポート改革関連)	B
指標 チェックリスト等を活用し、家庭学習の進捗状況を確認する。		
取組内容③【区分 課題解決学習の充実】 アクティブラーニングの観点からICT機器を積極的に活用し、「考える力」をつけさせる。	(カリキュラム改革関連)	B
指標 複数教科での研究授業および教職員全体研修を2回以上行う。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
[小中連携] ・4、6月に小中連携会議を行い、年間計画の調整や小中交流の確認をした。9月末の体育大会学年演技披露会は雨天中止となつたが、2月末には部活動見学会を行う予定である。また、小中交流の授業参観も行つた。		
[1年] ・家庭訪問や学期末懇談等で家庭学習を呼びかけているが、実際に取り組めている生徒は少ない。その結果、定期テストでは平均点が例年に比べて低い。		
[2年] ・テスト計画表を活用し学習計画をたて、チェックすることで学習への声掛けができている。		
[3年] ・1年生の当初から、放課後の家庭学習をうながすため「家庭学習ノート」の取り組みを進めてきた。家庭学習の必要性への理解は進んできたが、実際の学習に関しては個々の生徒の温度差は大きい。		
[ICT] ・夏休みの校内研修以降、プロジェクト、授業用パソコン等のICT機器を活用する教科が増えてきた。今後は、生徒用タブレット端末を利用する授業も普及していきたい。		
次年度への改善点		
[小中連携] ・来年度は学年演技披露会に予備日を設け、小中交流の機会を増やしたい。 ・家庭学習の習慣づけのための方策を工夫していきたい。		
[3年] ・新学年でも「家庭学習ノート」の取り組みなど基本的学力をつけさせる学習を続けていきたい。		
[全体] ・家庭学習の重要性について、様々な場面で保護者・生徒へと更に訴えていきたい。		

[I C T]

- ・アクティブラーニングの取り組みについて、今後加速させていきたい。

年度目標	達成状況
<p>【 視点 道徳心・社会性の育成 】</p> <p>③豊かなつながりを生み出す生活指導(<i>Guidance</i>)を目指す。 子ども相互がエンパワーできる集団を育成し、生徒が主体となった各種の行事を成功させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 区分 國際社会に生きる子どもの教育の推進 】</p> <p>個性・能力の違いを認め、互いに助け合うやさしい心を育てる。</p> <p>(グローバル化改革関連)</p>	B
<p>指 標</p> <p>各学年、委員会を中心として、泊行事・体育大会を成功に導くとともに、アンケート結果を参考に考察・改善を行う。</p>	
<p>取組内容②【 区分 人権を尊重する教育の推進 】</p> <p>「いのち」や「思いやりの心」を大切にし、いじめを絶対に許さない取り組みを各学年で実施する。</p> <p>(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指 標</p> <p>教育相談期間を設けるとともにアンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

[1年]

- ・生徒同士が声をかけあい、助け合いながら各行事を成功させた。
- ・体育大会では体育委員と学級代表、ポンダンス委員を中心に、教え合う・声を掛け合う場面を作ることができた。
- ・学年演技を通して思いやりの気持ちと団結力を養うことができた。
- ・教育相談を活用し、生徒の実態を把握することができた。

[2年]

- ・体育大会を通じて体育委員やダンス委員を中心に協力し、成功することができた。

[3年]

- ・修学旅行については、学級代表・修学旅行委員を中心として、ルールやマナーなども含め、計画運営をさせた。学年の代表を中心に学年全員が自主的な活動を成し遂げることができた。

[体育大会]

- ・体育大会では体育委員と学級代表を中心に、教え合う・声を掛け合う場面を作ることができた。
- ・各学年とも学年演技を通して思いやりの気持ちと団結力を養うことができた。

次年度への改善点	
[1年]	<ul style="list-style-type: none"> 各行事を通して、リーダーとなる生徒を育成し、より円滑に学年を運営できるようにしていく。 思いやりのある声掛けや行動ができる生徒を育成し、「信頼・安心できる学年」づくりに努める。
[3年]	<ul style="list-style-type: none"> 新学年でも自主自立できる学年を目指し、リーダーを育て、互いを認め合える学年を目指す。
[生活指導部]	<ul style="list-style-type: none"> 各行事や取り組みの中で、リーダー育成や主体性を養う場を多く取り入れた教育活動を意識して展開していきたい。 「いのちや思いやり」に関する学習に関して、いのちの日の集会や、道徳の授業、ゲストティーチャー事業などを充実したものにすることによって、人権尊重の精神を養う機会としてより充実したものにしていきたい。

年度目標	達成状況
<p>【 視点 道徳心・社会性の育成 】</p> <p>⑥双方向的な家庭とのかかわり (<i>Home-school link</i>) を目指す。</p> <p>全国学力・学習状況調査における「学校のきまり、規則を守っている」について肯定的に回答する生徒の割合を昨年度より高める。 (学校サポート改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 区分 自尊感情と思いやりの心、社会性の育成 】</p> <p>ゲストティーチャー派遣事業により、「いのちと性」の教育事業、子どものストレスマネジメント教育事業、子どもの情報モラル教育事業を実施し、自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を醸成する。</p> <p>区役所との連携 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>全生徒を対象に、どの学年も3事業すべてに参加できるよう、「いのちと性」の教育事業、子どものストレスマネジメント教育事業、子どもの情報モラル教育事業を、のべ18回実施する。</p>	
<p>取組内容②【 区分 道徳教育の推進 】</p> <p>文化鑑賞会において、優れた文化・芸術に触れることにより豊かな心を育む。</p> <p>(学校サポート改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>文化鑑賞会において演劇鑑賞会を実施する。</p>	

取組内容③【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】

地域の方々をボランティア講師として迎え、通常の授業では体験できない充実感を経験させる。

学校からの情報発信を積極的に行い、家庭との連携体制を発展させる。

(学校サポート改革関連)

B

指標

1年生ふれあい総合学習を計画・実施し、成功させる。

毎週2回程度のホームページ更新を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

[1年]

- ・ゲストティーチャー事業の「いのちと性」でのアンケートの結果、「自分にはよいところがあると思う」の項目で、「とても思う」と「少し思う」の回答が合わせて24.4%上昇するなど、生徒の自尊心が高まったと考えられる。
- ・文化鑑賞会では、当日までに各教科・各部活動でしっかり取り組んだことで、多くの生徒が展示作品や芸術鑑賞に興味をもつことができた。
- ・ふれあい総合学習において地域の方々とふれあい、通常の授業では体験できない活動に取り組むことができた。生徒たちも一生懸命取り組み、お礼の歌のプレゼントも気持ちがこもった素晴らしいものになった。

[全体]

- ・ゲストティーチャー授業の「情報モラル」・「いのちと性」は、予定通り実施できた。「ストレスマネジメント」の授業は、2月に実施予定である。
- ・ホームページの更新において週2回程度行うことができ、リニューアルすることができた。

次年度への改善点

[1年]

- ・「性」に関しての取り組みは、偏った考えにならないように慎重に行っていく。
- ・「情報モラル」の授業内容が昨年度とほぼ同じであった。今後、内容について、ゲストティーチャーとしっかり連携を密にとって計画していきたい。
- ・ホームページについて、更なる充実を図っていく予定である。

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>⑦安心して学べる学校環境(<i>Environment</i>)を目指す。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学校に行くのは楽しい」の項目について「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度より増加させる。</p> <p>(マネジメント改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分 教育環境の整備】 授業時間・休憩時間帯の校内巡視を行い、安全で規律ある雰囲気を構築する。 (マネジメント改革関連)		B
指標 昨年度と比較して、不登校生徒数を減少させる。		
取組内容②【区分 体育的活動の充実】 3学期のマラソン大会に向けて、体力の向上を目指すとともに、互いに助け合い、励ましあう環境をつくりあげる。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 PTAと一体になってマラソン大会を成功させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
[1年] ・教育活動全体で、生徒との関わりを重視すると共に、校内巡視や授業見学を行い、問題行動等への早期対応につなげている。		
[生活指導部] ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学校に行くのは楽しい」の項目について「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答する生徒の割合は昨年度 75.4%に対して今年度は 83.6%で 8.2 ポイント増加した。 ・教育活動全体で、生徒との関わりを重視すると共に、校内巡視や授業見学をおこない、問題行動等への早期対応につなげている。		
[マラソン大会] ・体育の授業で中長距離走を行い、体力の向上を図った。また生徒同士の励ましの声かけも増え、雰囲気も良く、参加者全員が真剣に取り組むことができた。PTAの方のご協力もいただき、大成功となった。		
次年度への改善点		
[1年] ・トラブルなどの防止において、未然に防ぐことのできなかった事例もあり、一層の努力が必要であると考える。		
[生活指導部] ・校内巡視や地域巡視を一層徹底し、安心して学べる教育環境の確立に努めていきたい。 ・行事や取組みを充実したものにして、生徒同士の繋がりや、学校と生徒との関係を築く場としての意義を深めていきたい。 ・規律正しい学校生活を基礎として、楽しい学校生活を自分達で築いていく体験をさせていきたい。		
[マラソン大会] ・遅刻生徒への対応や見学生徒の役割などをさらに明確にしていく。		

年度目標	達成状況
<p>【 視点 教職員の資質・能力の向上 】</p> <p>①気持ちのそろった教師集団(Teachers)を目指す。</p> <p>首席・主任・部長の連携をより一層円滑にし、チーム力を引き出すことのできるリーダーシップの育成を図る。</p>	B (マネジメント改革関連)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 区分 各種研究・研修の充実 】</p> <p>部長・主任会を充実させ、分掌間・学年間の情報交換を活発化させる。</p>	B (マネジメント改革関連)
<p>指 標</p> <p>主任会を毎月 2 回以上実施し、共通理解をふかめ、連絡調整を図る。</p>	
<p>取組内容②【 区分 若手教員の研修の充実 】</p> <p>メンターを中心に学びあい、育てあう若手教員集団を育成する。</p>	B (マネジメント改革関連)
<p>指 標</p> <p>OJT 事業等と連携し、年 3 回以上の研究授業、研究協議を実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・11月の「研究授業期間」では、全教員が積極的に相互参観を行った。 ・校務支援 PC を活用して、情報交換が迅速かつ正確に行えるように工夫した。 ・若手教員に学年の取り組みを積極的に企画・運営できるように工夫した。 ・11月 2 日に 1 年次と 5 年次、16 日に 2 年次の研究授業を実施した。 ・OJT 事業との連携では、7月 1 日に 5 年次、8月 31 日に 2 年次が道徳の研究授業を行った。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・部や分掌の合理化を図り、さらに正確で迅速な情報交換ができる体制を構築していきたい。 	

年度目標	達成状況
<p>【 視点 学校マネジメントの向上】</p> <p>②戦略的で柔軟な学校運営(<i>Organization</i>)を目指す。</p> <p>組織としてのビジョンと目標を共有し、その達成に取り組む教師集団の育成を図る。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 区分 組織運営 】</p> <p>学校独自のアンケートの実施及びその結果分析をもとに、課題解決に向けて、柔軟かつ機動的に対応できる組織を育成する。</p>	B
<p>指 標</p> <p>学校独自で生徒対象のアンケートを年2回以上実施しその分析に努める。</p>	
<p>取組内容②【 区分 組織運営 】</p> <p>保護者、地域との情報交換を通じた地域理解を深める。</p>	B
<p>指 標</p> <p>P T A実行委員会での情報交換等に基づき、地域の状況・問題点の把握に努める。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>[生活指導部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに1回、いじめアンケートを実施し、家庭・学校における生徒の実態の把握に努めた。さらに、その結果を受けて、各学年で教育相談に反映できる体制づくりをすすめている。いじめ等の未然防止・早期発見に努めてきたが、心無い行動から、人の気持ちを傷つけるような事例もあがっていた。2学期末のアンケートでは、特に大きな問題もなく全体的に改善がみられた。 	
次年度への改善点	
<p>[生活指導部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、生徒への声かけや関わりの中から、実態の把握に努め、個別の相談や教育相談において、アンケート内容を生かし、丁寧な対応ができるような組織づくりをしていきたい。 	

年度目標	達成状況
<p>【 視点 学校マネジメントの向上 】</p> <p>⑧前向きで活動的な学校文化 (<i>Rich school culture</i>) を目指す。 誇りと責任感に基づく学校文化をつくりあげるため、保護者・地域・関係諸機関との連携を深める。</p>	B (マネジメント改革関連)
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 区分 ひらかれた学校づくり】</p> <p>誇りと責任感に基づく自校の伝統を知るとともに、保護者・地域の理解を深める。</p>	B (学校サポート改革関連)
指標	
学校文化の中心を担う、大中ナビの制作・発行を行う。	
<p>取組内容②【 区分 キャリア教育】</p> <p>しっかりとした職業観・勤労観を身につけられるよう、ボランティア活動を中心としたキャリア教育を実施する。</p>	B (カリキュラム改革関連)
指標	
福祉体験学習を計画・実施し、成功させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>[ナビの会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大中ナビの会」には全教員の3分の1が出席し今後の活動予定を確認した。 ・今後、製本・DVD完成に向けて全教員で取り組む予定である。 <p>[2年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉ふれあい体験をとおして地域の人々に触れ合うことで充実した体験になった。 	
次年度への改善点	
<p>[ナビの会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転任等で当初の思いをつなげる人が少なくなってきたため、毎年4月に「ナビの会」の研修会を行う。 	